

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 5 日

札幌市立 北栄中学校

1 今年度の重点目標

自主性の尊重	自主的に学びとる態度を身につけさせるとともに、生徒一人ひとりの能力・特性の伸長を図る
連帯性の強調	豊かな情操を養い、協調的な生活態度を育てる
健康の増進	心身の健康に努め、生活環境を改善する態度を育てる。

2 本年度の経営方針

1. 安心・安全な学校づくり 2. 居心地の良い学校づくり 3. 学びを大切にす学校づくり 4. 自分の声が届く学校づくり
--

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	自ら学び、正しく判断し、お互いに学び合う心身ともに健康な生徒	学校全体の実践を見て、実践目標は学校や生徒の実態からみて適切であるか。	A	子どもの実態に合わせ、従来の形にこだわらず、柔軟な発想で取組方法を工夫し充実させながら、目指す子ども像の実現を図りたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		今の時代、様々な社会の変化がみられるので、柔軟な発想の取り組みがより一層大切だと考えます。				

人間尊重の教育	家庭や地域とともにある学校づくりの推進	子どもを中心に据えた、学校と地域との連携・協働の関係をつくる。	A	「子ども中心の活動」を学校、保護者、地域が協力して進めることで「支えられている自分」「自分が大切にされていること」を実感できる子どもの成長を図る。「プラスのまほう」「幸せ返し憲法」に基づく生徒による自治的な活動を推進する。	A	A
「学ぶ力」の育成	「学ぶ力」育成プログラムの実施	生徒一人ひとりの学力定着を目指した授業づくりを工夫している。	A	各学年ともに「学習のしおり」を活用し、計画的な家庭学習習慣の定着を図るとともに、自ら課題や目標を設定し、計画に沿って主体的継続的に学習に向かう姿勢を家庭と連携しながら育成する。	A	A
「豊かな心」の育成	道徳教育	道徳的諸価値について、理解をもとに物事を広い視野から考え、自己の生き方について考えを深める。	A	今後も道徳の教材研究に努めるとともに教員間で指導方法の交流・研修を行い、指導力の向上を図る。外部講師を招いての「非行防止教室」「命を学ぶ教室」を継続して行い、心の成長を図る。	A	A
「健やかな体」の育成	「健やかな体」育成プログラムの実施	心身の健康を保持増進させるための基本的な知識や実践力を身に付けさせる。	A	給食だより、保健だよりなどを通して健康に関する情報の適時提供に努める。望ましい生活習慣確立のため教育相談や期末懇談などで家庭との連携を強める。	A	A
いじめ対策・不登校対策	教員間の情報共有	未然防止・早期発見に心がけ、組織的対応を行う。	A	対策委員会や学年会等で子どもたちの様子を共有し、対策委員会を中心に組織的体制を整え、対応を協議し、推進する。	A	A
一貫性・連続性のある教育(小中一貫した教育)	CS・グランドデザインの見直し	パートナー校単位での「小中一貫した教育」の推進。	A	パートナー校相互の授業見学、中1生徒による小6児童への学校説明などを通して教育活動の連続性を高める。札幌教研春の集会における「知徳体」も育成についての意見交流などを通して小中の連携に努め、グランドデザインの実現を図る。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		除雪ボランティアなど、地域と学校とが協力しながら行っているが、具体的に実行することに意義があると考える。				

学校独自に設定する分野	さっぽろっ子自治的な活動	A	校内放送などを通して、本校生徒会による「幸せ返し憲法」の取り組みが生徒一人ひとりに浸透しつつある。	A	A
	業務改善・働き方改革	B	業務のデジタル化、行事の精選や実施方法の工夫により効率化を図り、教育活動の充実を進めつつ、教員の働き方改革を推進する。	A	A

学校関係者評価委員会による意見		地域・家庭・学校の連携が大切ではあるが、限られた条件の中で、働き方改革も考えながら進めることが必要				
-----------------	--	---	--	--	--	--